

I-3

先住民族サーミ人―「未開であること」を求められる人々

サーミ人については、『フィンランド語の世界を読む』の 17 課と 19 課で扱いました。そのサーミ人はフィンランド、スウェーデン、ノルウェー、そしてロシアの 4 か国に居住する人々ですが、北欧諸国では明確に先住民族として認められています。スウェーデン、ノルウェー、フィンランドにはそれぞれサーミ人たちが選挙を通じて選ぶ「サーミ議会」が存在し、自らのかわる問題については文化的自治を有しています。そんなサーミ人たちですが、とくに観光業においては多数派によるサーミ文化の利用が問題視されてきました。また、フィンランドにおいてはサーミ議会選挙における参政権について、国際連合の人権委員会などから人権侵害を指摘されています。ここでは、観光とサーミ議会選挙への参政権について、資料を読み進めていきたいと思えます。まずはサーミ語の文章を掲載しますが、もちろん日本語を読んでください。

【1】

Man gudnis anáŋge dološ Sámi	私は昔のサーミの地にいかに敬意を抱いていることが
Vaikko vel earát čájehivččege	他の人々が見せたとしても
báhpiriid maid ieža leat čállán	自分たちの書いた書類を
vaikko vel lasi čálálivčče	さらに書き加えたとしても
máid dat dihte min dovddui'e	私たちの気持ちについて知っていることを

これは Nils Aslak Valkeapää (1943-2001) というサーミ人の詩人が書いた *Ruoktu váimmus* 『心の中の家』という作品の一節です。ここで表現しようとしているのは、「サーミ人以外の人間が自分たちサーミ人について知っていると思うことをあれやこれやと書いて、それを我々に見せてサーミ人について語ろうとするが、サーミ人について本当のことを知っているのは私、あるいは我々サーミ人なんだ」ということだと思えます。そして Valkeapää は別のところでも、多数派が自分たちサーミ人に対して「昔のままの静止した状態」にいることを常に求めているとして痛烈な批判を展開しています。

【2】サーミ人たちは変わってはいけない!

Tutustuminen menneisiin kulttuureihin saattaa olla yhtä hedelmällistä kuin tutustuminen eläviinkin kulttuureihin. Kun äsken väitin, ettei elävässä kulttuurissa ole mielekästä säilyttää kulttuuria, tarkoitin silloin eräänlaista elävää museota – Korkeasaarta – jossa ihmiset »pysäytetään» jonakin päivänä kulttuurin senhetkiseen kellomäärän osoittamaan tilaan.

Saamelaisilta helposti edellytetään tämänkaltaista pysähtynyttä tilaa, jossa jokainen uusi asia luetaan synniksi ja väärentämiseksi.

■ 語句・文法

menneisiin「過ぎ去ったような」[複入] < mennyt 能過分 < mennä/hedelmällinen「実り多い」< hedelmä/eläviin「生きているような」[複入] < elävä 能現分 < elää/väittää「主張する」/ mielekäs「合理的な」/ elävä「生きているような」能現分 < elää/Korkea-saari は Helsinki 中心から自動車やフェリーで 20 分ほどの場所にある島で、動物園や植物園が開設されている。ただ、ここでは島全体が野外博物館になっている Seura-saari のことを言おうとしているのではないかとも思うのですが。/ pysäytetään「止められる」受現 < pysäyttää < pysähtyä < pysähtää < pysyä/jonakin päivänä「ある日に」/ sen-hetkinen「その瞬間の」/ kello-määrä = kellon-aika「時刻」/ osoittamaan「示すような」[入] < osoittama 動分 < osoittaa/edellytetään「前提とされる、求められる」受現 < edellyttää/tämän-kaltainen「この種の」/ pysähtynyt「停止した」[分] < pysähtynyt 能過分 < pysähtyä/luetaan「みなされる」受現 < lukea/synniksi「罪悪だと」[変] < synti/väärentämiseksi「偽造することだと」動名[変] < väärentää < väärä

● フィンランド語理解のための訳例

過去の文化に親しむことは同じように実り多いかもしれない|生きている文化に親しむことと。[先ほど私が主張したとき|生きている文化においては合理的ではないと|文化を保存するというのは、]| [私はそのときに意図した|ある種の生きた博物館(野外博物館)を|—たとえば、Korkeasaari を—|そこでは人々は»静止させられる»|ある日に|文化の|その瞬間の時刻が指し示す状態に]。

サーミ人たちには容易に求められる|この種の静止した状態が、|そこでは、すべての新しいことはみなされる|罪悪として|そして偽物として。

◎ 意訳

過去の文化を知ることは生きている文化を知ることと同じくらい実り多いことであるかもしれない。先ほど私が、生きている文化の中で文化を保存するというのは合理的ではないと主張したとき、私はある種の野外博物館、たとえば Korkeasaari のようなもののことを言おうとしていたのである。つまり、そこでは文化のある特定の時点における状態に人々は「静止させられる」のである。

サーミ人にはこのような静止した状態がたやすく求められ、そこでは新しいことは何であれ罪悪であり偽物なのである。

★ 補足

サーミ人たちに「文化を保存すべきだ」と要求することは、古い建築物などが保存することと同じであり、つまり野外博物館になれと言っているようなものだと思います。ここで指摘されているような多数派の態度がもっとも明確になるのが観光の世界かもしれません。フィンランドのサーミ議会は 2018 年に Vastuullisen ja eettisesti kestävä Saamelaismatkailun toimintaperiaatteet. 『責任ある、そして倫理的に持続可能なサーミ人観光の行動原則』という報告書を発表しています。その報告書から重要な箇所を読み進めていきます。

【3】まずは「サーミ観光」とは何なのか

Saamelaismatkailu ymmärretään tässä yhteydessä matkailuna, jossa saamelaiskulttuurin voimavaroja hyödyntäen tuotetaan matkailupalveluja ja tarjotaan niitä liiketoiminnallisin perustein. Se voi olla saamelaisuuteen perustuvaa matkailua, jossa saamelaisyhteisön sisältä tulevat toimivat matkailuelinkeinon harjoittajina, tai saamelaisuutta hyväksikäyttävää matkailua, jossa saamelaisyhteisön ulkopuolelta tulevat matkailuelinkeinon harjoittajat ja muut matkailutoimijat hyödyntävät ja hyväksikäyttävät saamelaiskulttuuriin liittyviä ja/tai viittaavia elementtejä matkailupalveluissa ilman varsinaista yhteyttä saamelaisyhteisöön.

■ 語句・文法

ymmärretään matkailuna「観光として理解される」(ymmärretään 受現 < ymmärtää, matkailuna [様] < matkailu < matkailla < matkata < matka) / tässä yhteydessä「この関係においては、この文脈においては」(yhteydessä [内] < yhteys < yksi) / voima-varoja「資源を」[複分] < -vara / hyödyntäen「活用することにより」e 不[具] < hyödyntää < hyöty) / tuotetaan「作り出される」受現 < tuottaa < tuoda / tarjotaan「提供される」受現 < tarjota / liike-toiminnallisin perustein「商売の原則により」[複具] < liike-toiminnallinen peruste (liike-toiminta「商売、ビジネス」) / saamelaisuuteen perustuvaa「サーミ人であることにもとづくような」(saamelaisuuteen [入] < saamelaisuus < saamelainen < saame, perustuvaa [分] < perustuva 能現分 < perustua) / sisältä tulevat「中から来る人たち」(tulevat [複主] < tuleva 能現分 < tulla) / elinkeino「生業」 / harjoittajina「営む者たちとして」[複様] < harjoittaja < harjoittaa / hyväksi-käyttävää「利用するよ
うな」[分] < -käyttävä 能現分 < -käyttää (käyttää hyväksi「利用する；悪用する」) / saamelaiskulttuuriin liittyviä ja/tai viittaavia elementtejä「サーミ文化に結びつくような、そして／あるいは言及するような要素」(liittyviä [複分] < liittyvä 能現分 < liittyä, viittaavia [複分] < viittaava 能現分 < viitata, elementtejä [複分] < elementti) / varsinainen「本来の、本当の」

● フィンランド語理解のための訳例

サーミ観光とは理解される | この文脈においては | 観光として、 | そこではサーミ文化の資源を | 利用することにより | 作り出す | 観光サービスを | そして提供する | それらを | 商売の原則により。それはありうる | [サーミ人であることにもとづくような観光、 | そこではサーミ人共同体の中から来る人々が | 活動する | 観光業を営む者として]、 | あるいは | [サーミ人であることを利用するよ
うな観光、 | そこではサーミ人共同体の外側から来るような | 観光業を営む人たち | そしてその他の観光関係者たちが | 活用し利用する | サーミ文化に結びつくよ
うな | そして／あるいは | 言及するよ
うな | 要素を | 観光サービスにおいて | 本来の関係なしに | サーミ共同体への]。

◎ 意訳

ここでの文脈においてサーミ観光とは、サーミ文化という資源を活用し観光サービスを生み出し、それらを営利目的で提供する観光だと理解することができる。それは、サーミ人共同体の出身者が

観光事業者として行う「サーミ人であること」にもとづく観光である場合もあれば、サーミ人共同体の部外者である観光事業者や観光関係者たちが、本来のサーミ人共同体とのかかわりもないまま、サーミ文化に関係するような、そして／あるいはサーミ文化に言及するような要素を利用し、悪用するような、「サーミ人であること」を利用する観光である場合もある。

【4】サーミ観光の問題①「文化的アイデンティティの盗用」

Kulttuurisessa identiteettivarkaudessa on kyse tilanteesta, jossa esiinnyttään luvatta toisena henkilönä ja/tai toisen kansan edustajana. Tällöin johdetaan tarkoituksella kolmatta osapuolta harhaan käyttämällä esimerkiksi toisen kansan yksilöivää tietoa ja/tai symbolia ja siten aiheutetaan vähäistä suurempaa haittaa heille, jota tieto koskee tai joille käytetty symboli kuuluu. Esimerkkinä mainittakoon matkailualan toimijan esiintyminen saamelaisena ilman varsinaista yhteyttä saamelaisyhteisöön ja/tai saamelaisyhteisön hyväksyntää.

■ 語句・文法

identiteetti-varkaudessa 「アイデンティティ盗用において」(varkaudessa [内] < varkaus < varas) / kyse 「問題」 / esiinnyttään 「登場する」 受現 < esiintyä < esiin < esi-) / luvatta 「許可なしで」 [欠] < lupa / toisena henkilönä 「別の人物として」 [様] < toinen henkilö / edustajana 「代表者として」 [様] < edustaja < edustaa < edus < etu / johdetaan 「導く」 受現 < johtaa / tarkoituksella 「意図をもって」 [接] < tarkoitus < tarkoittaa / kolmatta osa-puolta 「第三者を」 [分] < kolmas osa-puoli (osa-puoli 「関係者」) / harhaan 「思い違いへ」 [入] < harha / yksilöivää 「識別するような、区別するような」 [分] < yksilöivä 能現分 < yksilöidä < yksilö < yksi / aiheutetaan 「引き起こす」 受現 < aiheuttaa < aihe / vähäistä suurempaa 「少なくないような(「少ないよりも多い」)」 (vähäistä [分] < vähäinen、分格は比較級と結びつくと比較対象を表す) / jota [分] < [関代] joka (ここでは先行詞が heille と複数になっているので、jota ではなく joita となるべき気もします) / koskea 「関わる」 / käytetty 「使われるような」 受過分 < käyttää / kuulua 「属する、～のものである」 / mainittakoon 「言及しておこう」 [命] 単 3 < mainita / matkailu-ala 「観光業界」 (ala 「分野」) / esiintyminen 「登場すること」 動名 < esiintyä / hyväksyntä 「承認、許可」 < hyväksyä < hyvä

● フィンランド語理解のための訳例

文化的な | アイデンティティ盗用においては | 問題である | 状況について、 | そこでは登場する | 許可なしに | 別の人物として | そして／あるいは | 別の民族の代表者として。このとき | 導く | 意図をもって | 第三者を | 思い違いへ | 使うことにより | たとえば他の民族を | 識別するような情報 | そして／あるいは | 象徴 | そして、そうして引き起こす | 少なくない面倒を | 彼らへ、 | それに | 情報は関係する | あるいはそれらへ | 使われた象徴は | 属する。例として言及しておこう | 観光業界の行為者の登場に | サーミ人として | 本来の関係なしに | サーミ人共同体へ | そして／あるいは | サーミ人共同体の承認(なしに)。

◎意訳

文化的アイデンティティの盗用という場合には、誰かが許可もなく別の人間として、そして／あるいは別の民族の代表として登場するような状況が問題となる。この場合には、たとえば他の民族のことを明確に示すような情報、そして／あるいはシンボルを使用することで、第三者を意図的に惑わし、さらに、その情報が関係する人々、あるいは使用されたシンボルを所有する人々に少なからず被害を与えることになる。このような文化的アイデンティティ盗用の例として、観光業に携わる人間がサーミ人共同体との本来の関係もなく、そして／あるいはサーミ人共同体の許可もないままに「サーミ人であること」を装うといった行為に言及しておこう。

【5】サーミ観光の問題②「固定観念化(ステレオタイプ化)」

Stereotypia on kiinteä, yksipuolinen, yleistetty ja yksinkertaistettu, monesti negatiivinen ja liioiteltu uskomus tietyn toisen ihmisryhmän ja/tai yksilön oletetuista piirteistä kyseisen ryhmän edustajana. Stereotypioiden käyttäminen on tapa, jolla yksinkertaistetaan sosiaalista maailmaa, sillä niiden avulla oiotaan mutkia ja pelkistetään käsitystä muista ihmisistä. Stereotypiat puoltavat ja kaunistelevat stereotypian luovan ryhmän piirteitä ja vähättelevät toisen, stereotyyppisen kuvauksen kohteena olevan ryhmän oletettuja ominaisuuksia.

■ 語句・文法

stereotypia「ステレオタイプ、固定観念」／kiinteä「固定された」／yleistetty「一般化された」受過分 < yleistää < yleinen／yksin-kertaistettu「単純化された」受過分 < -kertaistaa < -kertainen／liioiteltu「誇張されたような」受過分 < liioitella < liika／oletetuista「推測されるような」[複出]< oletettu 受過分 < olettaa < olla／piirteistä「特徴について」[複出] < piirre < piirtää／oiotaan「まっすぐにする、近道をする」受現 < oikoa = oikaista／mutkia「湾曲を、カーブを」[複分]< mutka／pelkistetään「単純化する、圧縮する」受現 < pelkittää ⇒ pelkkä／puoltaa「支持する、支援する」／kaunistella「美化する」／luovan「創り出すような」[属]< luova 能現分 < luoda／vähätellä「過小評価する、見くびる、見下す」< vähä ⇒ vähän／stereo-tyyppinen「ステレオタイプの的な」／kohteena olevan ryhmän「対象となっている集団の」(kohteena[様]< kohde, olevan[属]< oleva 能現分 < olla)／oletettuja「推測されるような」[複分]< oletettu 受過分 < olettaa < olla

● フィンランド語理解のための訳例

ステレオタイプとは|固定した、|一面的な、|一般化された|そして単純化された、|多くの場合否定的な|そして誇張された観念|ある特定の別の人間集団の|そして／あるいは|個人の|推測された特徴についての|問題となる集団の代表者として。ステレオタイプを使うことは方法である、|それにより単純化される|社会的世界、|というのも|それらの助けにより|まっすぐにする|湾曲を|そして単純化する|理解を|他の人々について。ステレオタイプは支持する|そして美化する|ステレオタイプを創り出す集団の特徴を|そして見くびる|別の、|ステレオタイプの的な描写の|対象となる集団の|推測される特徴を。

◎意訳

ステレオタイプというのは、ある特定の集団が、そして／あるいは個人が有すると推測される特徴についての、固定化された一面的で、さらに一般化・単純化された、多くの場合否定的で誇張された観念のことである。ステレオタイプを利用するということは、社会的世界というものを単純化する方法である。というのも、ステレオタイプにより本来存在するはずの複雑さというものを素通りし、他の人々に関する理解を単純化してしまうからである。ステレオタイプは、それを作り出す集団の特徴を擁護・美化するものであり、ステレオタイプの描写の対象となる集団がもつてであろうとされる特徴を見下すものなのである。

【6】サーミ人=民族衣装、粗末な住まい、煤で黒ずんだ顔、振り回すナイフ

Saamelaisuuta hyväksikäyttävässä matkailussa keskeisiin stereotyyppioihin kuuluvat saamenpukua mukailevat jäljitelmät sekä perinteiset saamelaiset asumukset. [...] Lisäksi matkailullisissa keksityissä perinteissä, kuten Lapin kasteessa, ulkopuoliset ovat esittäneet väheksyvän ja ala-arvoisen kuvan saamelaisista nokisina, likaisina ja puukon kanssa heiluvina yksinkertaisina alkuasukkaina. Tällainen kuva saamelaisista on sekä loukkaava että valheellinen tuoden esiin ”saamelaisuutta” saamelaiskulttuurille vieraassa olomuodossa.

■語句・文法

hyväksi-käyttävässä「利用するような、悪用するような」[内]<-käyttävä 能現分 <-käyttää／saaman-pukua mukailevat jäljitelmät「サーミの衣装をまねた模造品」(mukailevat [複主]<mukaileva 能現分<mukailla <muka-, jäljitelmä <jäljitellä <jäljittää <jälki)／asumus「(質素な、原始的な)住居」<asua／matkailullisissa「観光に関するような」[複内]<matkailullinen <matkailu／keksityissä「考え出されたような、でっち上げられたような」[複内]<keksitty 受過分 <keksiä／Lapin kaste「ラップランドの洗礼」とはシャーマンに扮した人物が観光客を相手に神話や物語を語るもの／väheksyvän「見下すような、軽蔑するような」[属対]<väheksyvä 能現分 <väheksyä <vähä／ala-arvoinen「価値の低い」／nokisina「すすけたものとして、煤で黒くなったものとして」[複様]<nokinen <noki／heiluvina「ゆらゆらするような」[複様]<heiluva 能現分 <heilua／loukkaava「侮辱的な、傷つけるような」能現分 <loukata／tuoden「もってくることにより」e 不[具]<tuoda／olo-muoto「状況」

●フィンランド語理解のための訳例

サーミ人であることを利用する観光において|中心的なステレオタイプに属する|サーミの衣装をまねた模造品が|そして伝統的なサーミ人の住まいが。[...]加えて|観光における|考え出された|伝統において、|たとえば「ラップランドの洗礼」のような、|部外者たちは提示してきた|見下すような|そして価値の低い像を|サーミ人たちについて|煤で黒くなった、|汚い|そしてナイフとともにふらふらする|単純な先住民として。このような像は|サーミ人たちについて|侮辱的なものである|そして嘘である|提示することにより|「サーミ人であることを|サーミ文化にとって異質な状況において。

◎意訳

サーミ人であることを悪用する観光において、主要なステレオタイプに属するのはサーミ人の衣装をまねた模造品や伝統的なサーミ人の住居である。[...]さらに、「ラップランドの洗礼」などのような、観光によりでっち上げられた伝統の中では外部の人間たちは、煤にまみれた薄汚い、そしてナイフを振り回す単純な原住民としてサーミ人について軽蔑的で価値の低いものであるというイメージを提示してきた。サーミ人に関するこのようなイメージは、サーミ文化にとっては異質な状況において「サーミ人らしさ」を提示することにより生み出される侮蔑的で嘘にまみれたものなのである。

【7】サーミ観光の問題③「風変わり化(エキゾチック化)」

Eksotisoinnin kautta ihmiset, esineet ja/tai paikat esitetään vieraina, kiehtovina ja/tai romantisoituina. Eksoottisena kuvattu kohde edustaa toiseutta eli poikkeaa ”meistä” ja määritellään siten erilaiseksi eli ”normaalista” poikkeavaksi. Eksotiikan ja vierauden eli toiseuden etsiminen on ollut matkailun motiivina jo vuosisatoja. Ulkopuolisten luoma saamelaiskuva matkailussa perustuu toiseuteen eli eksoottiseen erilaisuuteen kaukaisine asuinsijoihin ja värikkäine saamenpukuineen, jota matkailumarkkinoinnissa viljellyt termit ”maagisuus” ja ”myyttisyys” korostavat ja vahvistavat.

■語句・文法

eksotisointi「風変りなものにすること、エキゾチックなものにすること」< eksotisoida ⇒ eksotiikka, eksoottinen / kiehtovina「魅力的なものとして」[複様]< kiehtova 能現分 < kiehtoa / romantisoituina「美化されたものとして、ロマンチックなものとして」[複様]< romantisoitu 受過分 < romantisoida ⇒ romanttinen / eksoottisena kuvattu「風変りなものとして描かれたような」(kuvattu 受過分 < kuvata < kuva) / toiseutta「異なるものであることを」[分]< toiseus < toinen / poikkeaa「異なる」< poiketa + [出] ⇒ poikki / poikkeavaksi「異なるものとして」[変]< poikkeava 能現分 < poiketa / vierauden「異質性の」[属]< vieraus < vieras / vuosi-satoja「数世紀の間」[複分]< -sata / luoma「創り出すような」動分 < luoda / kaukaisine asuin-sijoihin「遠い居住場所とともに」(kaukaisine [共]< kaukainen, -sijoihin [共]+ 単 3 所接 < -sija) / värikkäine saamen-pukuineen「色とりどりのサーミの衣装とともに」(värikkäine [共]< värikäs < väri, -pukuineen [共]+ 単 3 所接 < -puku) / markkinoinnissa「マーケティングにおいて」[内]< markkinointi < markkinoida < markkina / viljellyt「育てられたような」[複主]< viljelty 受過分 < viljellä「耕す、育てる」/ maagisuus「魔術性、不思議な力」< maaginen / myyttisyys「神話性、神話的であること」< myyttinen < myytti

●フィンランド語理解のための訳例

風変りなものにすることを通して|人々、物|そして/あるいは|場所は提示される|異質なものとして|魅力的なものとして|そして/あるいは|ロマンチックなものとして。風変りなものとして描かれた対象は|代表する|異なるものであることを|つまり、異なる|「我々とは」|そして定義される|そうして|

別の種類のものとして|言い換えれば|「普通」とは異なるものとして。風変りさと異質性|言い換えれば異なることを探すことは|観光の動機としてあった|すでに何世紀もの間。外部の者が作り出したサーミ人像は|観光における|もとづく|異なるものであることへ|言い換えれば|風変りな異質性へ|遠い居住場所とともに|そして色とりどりのサーミ人の衣装とともに、|それを|観光マーケティングにおいて|育てられた用語|「魔術的であること」|そして「神話的であること」|強調する|そして強める。

◎意訳

エキゾチック化を通じて、人、物、場所は異質で魅力的なものとして、そして／あるいはロマンチックなものとして提示される。エキゾチックなものとして描かれる対象は他者性を代表し、すなわち「我々」とは異なるものであり、したがって異なるものとして、すなわち「普通」から逸脱したものとして定義されるのである。エキゾチック化と異質性、つまり他者性を求めることは、すでに数世紀の間観光の動機として存在してきた。観光において外部の人間たちが作り上げるサーミ人のイメージは他者性にもとづくのであり、遠く離れたところにある粗末な住まいや色とりどりのサーミ人の衣装を含めエキゾチックな異質性にもとづくのである。そして、観光マーケティングで培われてきた「魔術的」だとか「神話的」だとかという用語によって、その異質性は強調され補強されるのである。

【8】サーミ観光の問題④「天然記念物化(ズーイフィケーション)」

Zooifikaatio tarkoittaa esitystapaa, jossa erityisesti alkuperäiskansayhteisöt ja niiden jäsenet esineellistetään matkailunähtävyydeksi ja heitä kohdellaan kuin he olisivat osa luontoympäristöön kuuluvista vetonauloista. Suomessa matkailualalla mielikuva saamelaisuudesta keskittyy vahvasti saamenpuvun ympärille. Saamenpukuun pukeutuneisiin henkilöihin suhtaudutaan monesti ”näyttelyesineinä” eli persoonattomina objekteina.

■語句・文法

zooifikaatio は英語の zooification を借用したものだと思います。日本語を見つけることができませんが、ひょっとすると観光に関する学術論文などでは日本語訳が提案されているのかもしれませんが。ここでは、文章の内容に沿う形で「天然記念物化」という日本語を使うことにします。／esitystapa「提示法」／alkuperäis-kansa「先住民族」／esineellistetään「物とみなされる、物として扱われる」受現<esineellistää = esineistää <esine /nähtävyydeksi「見どころとして」[変]<nähtävyys <nähtävä <nähdä /kohdellaan「扱われる」受現 <kohdella <kohdata <kohta /kuuluvista「属するような」[複出]<kuuluva 能現分 <kuuluva /veto-nauloista「呼び物のうち、惹きつけるもののうち」[複出]<-naula /mieli-kuva「心象、イメージ」/pukeutuneisiin「身を包んだような、着込んだような」[複入]<pukeutunut 能過分 <pukeutua (+[入])<pukea ⇒ puku /suhtaudutaan「向き合う、態度をとる」+[入] ⇒ suhde /näyttely-esineinä「展示物として」[複様]<-esine /persoonattomina「人格をもたないような、人間ではないような、非個性的な」[複様]<persoonaton <persoonaa

●フィンランド語理解のための訳例

「天然記念物化」は意味する|提示法を、|そこではとくに先住民族共同体|そして、それらの構成員|物として扱われる|観光の見どころとして|そして彼らは扱われる|彼らは一部であるかのように|自然環境に含まれている呼び物のうち。フィンランドでは|観光業界では|イメージ|サーミ人であることについて|集中している|強く|サーミ人の衣装の周りへ。サーミ人の衣装へ|身を包んだ|人物には|向き合う|多くの場合|「展示物」として|言い換えれば|人格のない対象として。

◎意訳

「天然記念物化」とは、とくに先住民族社会やその構成員を観光の見どころとして物扱いしながら提示するような手法のことであり、彼らは自然環境に含まれるさまざまな呼び物の一部であるかのように扱われる。フィンランドの観光業界においては、サーミ人のイメージはサーミ人の衣装に関連するものに強く集中している。サーミ人の衣装に身を包んだ人物は多くの場合、人格などもたない対象物として、つまり「展示物」として扱われるのである。

[9]サーミ観光の問題④「未開化(プリミティブ化)」

Matkailullisessa markkinoinnissa, viestinnässä, tuotteistamisessa ja esittämisessä primitivisointi korostaa ja samalla vahvistaa menneisyyteen sidotun elämäntyylin mukaista mielikuvaa alkuperäiskansasta. Toisin sanoen primitivisointi tukee museoitua, muuttumatonta ja menneisyyteen pysähtynyttä kuvaa saamelaisyhteisöstä, jota ei ole vielä moderni elämä saavuttanut ja/tai sivistys pilannut.

■語句・文法

markkinointi「マーケティング」< markkinoida / viestintä「コミュニケーション、広報」< viestiä < viesti / tuotteistaminen「製品化、商品化」動名 < tuotteistaa < tuote < tuottaa < tuoda / esittäminen「提示すること、プレゼンテーション」動名 < esittää / primitivisointi「未開化(サーミ人たちの実際の姿を無視し、「未開の」人々というイメージを作り出すこと)」< primitivisoida ⇒ primitiivinen / sidotun「縛られたような」受過分[属] < sitoa / museoitua「博物館の展示品にされたような」[分] < museoitu 受過分 < museoida < museo

●フィンランド語理解のための訳例

観光マーケティング、広報、商品化、プレゼンテーションにおいて未開化は強調し、同時に強化する|[過去に縛りつけられた生活様式にしたがったイメージを|先住民族について]。言い換えれば、未開化は支える|[博物館化された、|変化することのない|そして過去の中に静止したイメージを|サーミ人共同体について]、|それにまだ現代的な生活は到達していない|そして/あるいは文化が台無しにすることも(していない)。

◎意訳

観光のマーケティング、広報、商品化、そしてプレゼンテーションにおいて「未開化(プリミティブ

化)」は、先住民族について過去に縛りつけられた生活様式に沿ったイメージを強調し、同時に強化するものである。別の言い方をすれば、未開化はサーミ人社会について、いまだ現代生活に侵されていない、そして／あるいは文明によって破壊されていないサーミ人共同体について、博物館の展示物にされ、変化することがなく、そして過去のある時点で静止したイメージを支えるものとなる。

★補足

「未開化」、あるいは「原始化」という問題が取り上げられていますが、「未開」や「原始」そのものが必ずしも悪いというわけではないということは確認しておく必要があるでしょう。「未開」や「原始」の逆が「文明」だとすれば、この地球を破壊し人間社会を不公正なものにしているのも「文明」なわけですから、むしろ「未開」や「原始」を肯定的にとらえる必要もあるはずです。ただし、サーミ観光との関係で言われている「未開化」「原始化」が問題なのは、現実とはまったく異なるサーミ人像を作り出そうとしているのだと思います。

【10】未開であるからこそ「サーミ人」は観光のネタになる??

Primitivisoinnilla luodaan kuva ”koskemattomasta” ja siten ”aidosta” kansasta eli ”jaloista villeistä”, joka on jäännös menneiltä aikakausilta. Saamelaisen hengellisen perinteen ja myyttisen menneisyyden korostaminen matkailun toimesta primitivisoi saamelaisia, tukee ja vahvistaa vääränlaista stereotyyppiä ja virheellisiä representaatioita, joille ei löydy vastinetta nykyajan todellisuudesta. Primitivisointi ei anna matkailussa esitettävälle saamelaisuudelle mahdollisuutta olla osa tämän päivän elävää ja dynaamista kulttuuria, vaan sen kautta saamelaisista annettava kuva lukitsee heidät mystiseen menneisyyteen.

■語句・文法

koskematon「触れられない」否分 < koskea / jalo villi「高貴な野蛮人」(先住民族などを「文明に犯されていない人間本来の美德を備えたもの」として見るようなステレオタイプの考え方のことで、英語では noble savage という) / jäännös「遺物、遺跡」 < jäädä / vääränlainen「誤った」 / representaatio「表象、表現」 / matkailussa esitettävälle saamelaisuudelle「観光において提示されるサーミ人の特徴に対して」(esitettävälle「提示されるような」受現分 [向] < esittää) / dynaaminen「動的な、活力のある」 / annettava「与えられるような」受現分 < antaa / mystinen「神秘的な」

●フィンランド語理解のための訳例

未開化により作り出すイメージを「手つかずの」、したがって「本物の」民族について「つまり「高貴な野蛮人」について、それは遺物である過ぎ去った時代からの。[サーミ人の精神的伝統や神話的な過去を強調することは観光事業によって]未開化するサーミ人を、[支え強化する]誤った固定観念を、そしてまちがった表象を、[それらには見つからない]対応するものが現代の現実の中から]。未開化は与えない観光の中で提示されるサーミ人の特徴に対して可能性を[一部であるための今日の生きているダイナミックな文化の]、そうではなく、それ<未開化>を通じて

サーミ人たちについて提示されるイメージは閉じ込める|彼らを|神秘的な過去へと。

◎意識

「未開化」によって作り出されるのは、「手つかずの」、つまり「本物の」民族についての、つまりは過去の時代の遺物である「高貴な野蛮人」というものについてのイメージである。観光事業によりサーミ人の精神的伝統や神話のような過去を強調することは、サーミ人たちを未開化し、現在における現実の中には相当するものがないような誤ったステレオタイプや嘘の表象を支え強化することになる。未開化は、観光において提示されるサーミ人というものが現代の生きる動的文化の一部となることを許さず、未開化により作られるサーミ人に関するイメージはサーミ人たちを神秘的な過去へと閉じ込めるのである。

【11】サーミ人の視点に立脚した観光は伝統的な生業のためにもなる。

Perinteisten elinkeinojen rinnalla uudet elinkeinot kuten vastuullinen ja eettisesti kestävä saamaleisuuteen perustuva matkailu tukevat perinteisten elinkeinojen kannattavuutta ja edistävät työllisyyttä paikallisesti.

■語句・文法

elin-keinojen「生業の」[複属] < -keino / rinnalla「並んで、ともに」⇒ rinnalta, rinnalle / vastuullinen「責任を負うような」< vastuu / eettisesti「倫理的に」< eettinen / kestävä「持続可能な」能現分 < kestää / perustuva「もとづくような」能現分 < perustua / kannattavuutta「収益性を、採算性を」[分]< kannattavuus < kannattava 能現分 < kannattaa「採算が取れる」/ työllisyyttä「雇用を」[分] < työllisyys

●フィンランド語理解のための訳例

伝統的な生業と並んで|[新しい生業は|<次の>ような|責任ある|倫理的に持続可能な|サーミであることもとづく観光]|支える|伝統的な生業の採算性を|そし促進する|地元における雇用を。

◎意識

伝統的な生業と並んで、「サーミ人であること」にもとづく責任ある倫理的に持続可能な観光のような新たな生業は、伝統的生業の収益性を支援し、現地における雇用を促進する。

【12】サーミ文化の観光利用に責任を負うのはサーミ人社会の構成員であるべき

Saamelaiskulttuurin matkailullisesta tuotteistamisesta ja/tai esittämisestä vastaavan tahon tulee tulla saamelaisyhteisön sisältä. Saamelaisuuteen perustuvan matkailun kulttuurisen kestävyuden keskeisiä piirteitä ovat aitous ja paikallisiin saamelaisiin perinteisiin, tapoihin sekä nykyaikaan perustuva saamelaiskulttuurin vastuullinen ja kestävä tuotteistaminen ja/tai esittäminen.

■ 語句・文法

tuotteistamisesta「商品化することについて」[出]< tuotteistaminen 動名 < tuotteistaa < tuote < tuottaa < tuoda / vastaavan「責任を負うような」[属]< vastaava 能現分 < vastata / taho「方面、関係機関」/ tulee tulla「来なければならない」(最初の tulee は「~しなければならない」という意味で A 不定詞を要求するため、ここでは次に tulla「来る」という A 不定詞が続いている) / saamelaisuuteen perustuvan matkailun kulttuurisen kestävyuden「サーミ人であることにもとどく観光の文化的持続性の」(perustuvan「もとづくような」[属]< perustuva 能現分 < perustua、kestävyuden「持続可能性の」[属]< kestävyys < kestävä < kestää) / piirteitä「特徴」[複分]< piirre < piirtää / aitous「真正性、本物であること」/ paikallisiin saamelaisiin perinteisiin, tapoihin sekä nyky-aikaan perustuva「現地のサーミの伝統に、慣習に、そして現在にもとづくような」

● フィンランド語理解のための訳例

サーミ人文化の|観光上の商品化について|そして/あるいは|提示について|責任を負う関係者たちは|しなければならない|来る|サーミ人社会の内部から。サーミ人であることにもとづくような|観光の|文化的持続可能性の|中心的な特徴|である|真正性|そして[現地のサーミ人の伝統に、|慣習に|そして現在に|もとづくような|サーミ人文化の|責任ある|そして持続可能な商品化|そして/あるいは提示]である。

◎ 意識

サーミ文化を観光における商品とすること、および/または提示することに責任を負うべき関係者は、サーミ人社会内部の出身者でなければならない。「サーミ人であること」にもとづく観光がもつ文化的持続可能性の主要な特徴となるのは、真正性、現地のサーミ人の伝統や慣習であり、サーミ人たちの現在の姿にもとづいて、責任をもってサーミ人文化を持続可能な形で商品化し提示することである。

★ 補足

ここで見てきたような先住民族に対する「偏見」を見事に表した日本語の文献もあります。ちょうどフィンランドではサーミ人の権利が憲法レベルで保障されることになった 1995 年に出版された書籍ですが、みごとにまでサーミ人たちを「未開化」しています。

現在ノルウェー、スウェーデン北部地方では学校教科書もラップ語のものがあり、ラップ語のラジオ放送も行われている。またスウェーデンでもノルウェーでもフィンランドでもサーメ議会が創設され、北欧サーメ協議会もできたりして少数「民族」としての保護を受けているが、彼らはすでにスウェーデン化、ノルウェー化されていて、ラップ人自身彼らの伝統文化への執着を失いつつあるらしい。それに彼らの多くはもう定住しており、夏になると観光客のために民族衣裳をまとい、トナカイをそばにして笑顔をつくり、写真を撮らせるアルバイトをしたりしている。その姿を見て私は心が痛んだ記憶をもっている。彼らは町に住んでほかに定職をもっており、家でも多くはノルウェー語やスウェーデン語を話しているのだ。今世紀初め頃にはラッ

プ民族独立の運動もあつたらしく、その檄文なども文献に見え、ラップの詩なども編纂されたりしたが、もはや大スカンジナビアの文化と社会に同化してしまい、民族も文化も消滅に向っている。(武田龍夫, 1995. 『北欧—その素顔との対話』中央公論社, 175-176 ページ.)

以下、個人的な感想・疑問です。

- ・「伝統文化への執着を失いつつあるらしい」ということを、どのように確認したのか。
- ・「定住して」いることに何の問題があるのか。
- ・「観光客のために…写真を撮らせる」ことはなぜ「アルバイト」であり生業でないのか。
- ・「町に住んでほかに定職をもって」とあるが、「定職」とは日々の生計を立てるためのものであり「ほかに」もつようなものではない。
- ・「家でも…ノルウェー語やスウェーデン語を話している」状況を作り出した責任は誰にあるのか。
- ・「民族も文化も消滅に向っている」と簡単に書いてしまう不遜な姿勢はけっして研究者の者ではない。
- ・「私は心が痛んだ記憶をもっている」とあるが、この記述自体が多くの人の「心を痛めつける」ものだろう。

この資料を読み進んでくださった方は、この引用の内容が今回の資料で指摘した姿勢をみごとに内面化していることにお気づきでしょう。そもそも「サーメ」という語をサーミ人自身が使用することを知らないながら、かたくなに「ラップ」という語を使う姿勢については、言葉を失います。先住民族や少数民族など少数派の呼称については、自分たちの主張を尊重するのが常識です。これらのことは出版年の 1995 年だということも考慮しても、言い訳にはなりません。

さて、ここまで読み進めれば【2】で取り上げた Nils Aslak Valkeapää の言うことがよく理解できるのではないかと思います。もう少し Valkeapää の言葉に目を向けておきましょう。

【13】「何位も変わってはいけないなんて！」

Mikään ei saisi muuttua. Hyvänen aika, silloinhan se ei olisi aitoa.

■ 語句・文法

hyvänen aika「あらまあ、とんでもない」／silloin-han「だって、そのときには」(-han/-hän を日本語に訳すのは難しいが、しばしば「あなたも分かっているだろうが」といったニュアンスを含み、何かの理由や根拠を示す働きがある)

● フィンランド語理解のための訳例

何も変わることはできないだろう。とんでもない、そのときには|それは本物ではないだろう。

◎ 意訳

何も変わることを許されないだと。冗談ではない、それでは本物などではないじゃないか。

【14】文化を保存する、それって「精神的な殺人」!

Kun siis kysytään, kannattaako jotakin kulttuuria säilyttää, on vastaus yksinkertaisesti: kyllä, mikäli kulttuuri on jo kuollut. Mutta älkää tappako elävää kulttuuria.

Sitä voisi nimittää henkiseksi murhaksi.

■ kannattaa「～する価値がある、～すべきだ」/ mikäli「～である限りは」/ henkiseksi murhaksi「精神的な殺人だと」[変]< henkinen murha

● フィンランド語理解のための訳例

[つまり尋ねられれば、|価値があるのかと|ある文化を保存する]|答えは単純だ:ええ、その文化がすでに死んでいるのであれば。しかし、殺さないでくれ|生きている文化を。

それは名づけることができるだろう|精神的な殺人と。

◎ 意訳

つまり、何らかの文化を保存することに価値があるのかどうか尋ねられれば、答えは単純にこうである:はい、その文化がすでに死に絶えているのであれば。しかし、生きている文化を殺すようなことはやめてくれ。

そのような行為は精神的殺人と名づけることができるだろう。

★ 補足

ここまで観光を中心に、多数派のサーミ人に対する「抑圧」の姿を見てきました。ただ、それ以上に根本的な問題が存在しています。それは「誰がサーミ人なのかを決めるのは誰なのか」という問題です。そのような問題について読み進めていきましょう。

【15】誰が「サーミ人」なのか

Nykyisessä saamelaiskäräjälaiissa saamelainen on henkilö, joka pitää itseään saamelaisena edellyttäen, että hän itse tai ainakin yksi hänen vanhemmistaan tai isovanhemmistaan on oppinut saamen kielen ensimmäisenä kielenään.

Saamelainen on myös sellaisen henkilön jälkeläinen, joka on merkitty tunturi-, metsä- tai kalastajalappalaiseksi maa-, veronkanto- tai henkikirjassa.

■ 語句・文法

saamelais-käräjä-laiissa「サーミ議会法において」[内]< laki/käräjät「議会、裁判(所)」(ふつう複数形で使いますが合成語で後ろに語が続く場合には käräjä-) / laissa「法において」[内]< laki/pitää itseään saamelaisena「自らをサーミ人だとみなす」(itseään[分]+ 単 3 所接 < itse) / edellyttäen「前提とすることにより」e 不[具]< edellyttää < edeltää < esi-/ ensimmäisenä kielenään「自らの第一言語として」(kielenään[様]+ 単 3 所接 < kieli) / jälkeläinen「子孫」<

jälki / on merkitty 「記録された」受完 < merkitä < merkki / tunturi-, metsä- tai kalastajalappalaiseksi 「丘陵ラップ人として、森林ラップ人として、あるいは漁師ラップ人として」[変]< -lappalainen (次の「★補足」を参照) / maa-, veron-kanto- tai henki-kirjassa 「土地台帳において、徴税台帳において、あるいは住民台帳において (veron-kanto 「徴税」)

●フィンランド語理解のための訳例

現在の「サーミ議会法」において |サーミ人は人物である、|それはみなす |自分自身を |サーミ人だと |
次のことを >前提として、 |その人自分自身 |あるいは少なくとも一人 |その人の両親のうち |あるいは祖父母のうち |習得している |サーミ語を |自らの第一言語として。

サーミ人とは |またそういう人物の子孫である、 |その人は記録されている |丘陵、 |森林 |あるいは漁師ラップ人として |土地、徴税、あるいは住民台帳において。

◎意訳

現行の「サーミ議会法」においてサーミ人とは、その人自身あるいはその人の両親または祖父母のうち少なくとも一人がサーミ語を第一言語として習得していることを前提としたうえで、自分自身のことをサーミ人とみなすような人のことである。

また、土地台帳、徴税台帳、住民台帳において丘陵ラップ人、森林ラップ人、あるいは漁師ラップ人として記載された人物の子孫もサーミ人である。

★補足

かつてサーミ人たちは lappalainen 「ラップ人」と呼ばれていました。厳密に言えば、現在「サーミ人」と呼ばれる人々の祖先が行っていたような生業に携わる人々を「ラップ人」と呼んでいたようです(さらに細かい生業や、おもな居住場所により「丘陵ラップ人」「森林ラップ人」「漁師ラップ人」と分類されていました)。そして、そのような生業に従事するようになった言語的・文化的には「フィンランド人」もまた「ラップ人」として各種の台帳に記載されたのです。つまり、ラップ人と呼ばれた人々すべてがサーミ語を話しわけではなく、つまり民族的な、あるいはエスニックな意味におけるサーミ人であったわけではありません。そして、そういう人々の子孫にしても事情は同じです。そのため、「ラップ人」とはむしろ生業にもとづいた分類だったと考えるべきであり、民族的な意味におけるサーミ人を意味していたのではないということが、サーミ人の多数派からは主張されています。

以上のような歴史的経緯により、現在のフィンランドではトナカイ飼育に従事するフィンランド人も少なくありません。ノルウェーやスウェーデンではサーミ人でなければトナカイ飼育に携わることはできないということを考えると、フィンランドの特殊性がよくわかると思います。

【16】サーミ人ではない人間が「サーミ人」になれるかもしれな

Nykyiseen vaaliluetteluun on joidenkin saamelaisten mielestä päässyt henkilöitä, jotka eivät ole saamelaisia. Pelkona on ollut, että saamelaisten asioista alkavatkin päättää ei-saamelaiset.

■ 語句・文法

vaali-luettelo「選挙人名簿」/joidenkin [複属]<jokin/ei-saamelainen「非サーミ人」

● フィンランド語理解のための訳例

現在の選挙人名簿には|あるサーミ人たちの考えでは|入っている|人物たちが、|それらはサーミ人ではない。恐れとしてある|サーミ人たちの物事について|始める|決める|非サーミ人たちが。

◎ 意訳

サーミ人たちの中には、現在のサーミ議会の選挙人名簿にはサーミ人ではないような人間も入り込んでいると考える人々もいる。恐れられているのは、サーミ人たちにかかわる事柄について非サーミ人たちが決定をし始めるのではないかということである。

【17】サーミ議会の多数派が「サーミ人」ではなくなる可能性がある

Riidat tiivistyvät siihen, kuka saa äänestää saamelaiskäräjien vaalissa. Perinteisesti saamelaisuus määriteltiin kielen kautta, mutta sen rinnalle nostettiin vuonna 1995 kriteeri, jolla saamelaiseksi voi päästä myös henkilö, jonka esi-isä on merkitty lappalaiseksi maa-, veronkanto- tai henkikirjaan.

Tämä avasi saamelaiskäräjät ihmisille, joiden suvussa on harjoitettu poronhoitoa ja muita saamelaiselinkeinoja, vaikkei välttämättä puhuttu saamea. Tällaisia esi-isiä on Lapissa niin monella, että he olisivat voineet saada enemmistön saamelaiskäräjillä. Siksi käräjien nykyinen enemmistö on halunnut poistaa lappalaiskriteerin laista.

■ 語句・文法

riita「争い、論争」/tiivistyä「圧縮される、凝縮される」<tiivistää < tiivis/äänestää「投票する」<ääni/määriteltiin「定義された」受過 < määritellä < määrittää < määrä/rinnalle「横へ、並んで」⇒ rinnalla, rinnalta/kriteeri「基準」/jolla「それにより」[接]<joka/saamelaiseksi voi päästä「サーミ人になることができる」/esi-isä「祖先」/joiden「それらの、彼らの」[複属]<joka/suvussa「一族に」[内]<suku/on harjoitettu「行われてきた」受完 <harjoittaa/poron-hoito「トナカイ飼育」/saamelais-elin-keino「サーミ人の生業」/vaikkei「～ではないのだが」= vaikka ei/välttämättä「必ずしも(～ない)」MA 不[欠]<välttää/monella「多くの人に」[接]<moni/enemmistö「多数派」⇔ vähemmistö/poistaa「除く」/lappalais-kriteeri「ラップ人であるという基準」(丘陵ラップ人、森林ラップ人、漁師ラップ人として各台帳に記載されていた人の子孫もサーミ人とみなすという基準)

● フィンランド語理解のための訳例

争いは集約する|〈つぎのこと〉へ|誰が投票できるのか|サーミ議会の選挙において。伝統的に|サーミ人であること|定義された|言語を通して、|しかし、それと並んで|上げられた|1995年に|基準が、|それにより|サーミ人になることができる|また〈次のような〉人物も、|その祖先が記録されてい

る|ラップ人として|土地、徴税、住民台帳へ。

これは開いた|サーミ議会を|人々へ、|それらの一族で|行われていた|トナカイ飼育|そして、そのほかのサーミ人の生業、|必ずしも話さなかったが|サーミ語。このような祖先はいる|ラップランドには|とても多くの人に、|<そのため>彼らはできただろう|手に入れる|多数派を|サーミ議会において。そのため|サーミ議会の現在の多数派は|望んでいる|除くことを|ラップ人であるという基準を|法から。

◎意訳

サーミ議会法の改正についての論争は、サーミ議会選挙において誰が投票できるのかという問題に集約できるだろう。サーミ人であるということは伝統的に言語を基準として定義されてきたが、それと並んで、土地台帳、徴税台帳、あるいは住民台帳にラップ人として登録された祖先をもつような人物もサーミ人とすることができるとい基準が、1995年に採用されたのである。

このことは、必ずしもサーミ語は話さないがトナカイ飼育やそのほかサーミ人たちの生業を行ってきた人間が一族の中にいるような人々にサーミ議会の扉を開くことになった。ラップランドには、このような祖先をもつ人は多く、そのような人々がサーミ議会における多数派を占めることもありえたはずだろう。だからこそ、現在のサーミ議会の多数派は、かつてラップ人として登録されていたということサーミ人であること条件とするような基準を削除することを望んでいるのである。

★補足

「サーミ議会法」において定義される「サーミ人」の基準を満たす人々は、同時にサーミ議会選挙での投票権を与えられることとなります。つまり、生業の点で「ラップ人」だとみなされたフィンランド人たちの子孫が、「サーミ人」として「サーミ議会」の選挙において投票し、あるいは議員に立候補できるということになる可能性があるわけです。そうなれば「サーミ議会」はサーミ人たちの文化的自治や権利を擁護する機関としての意義を失うことになるかもしれません。

【18】問題は「サーミ人」の自己決定権だ

Kyse on Saamen kansan itsemääräämisoikeudesta, jota Suomi rikkoo. Nykylinjan jatkaminen eli lakiuudistuksen hyllyttäminen johtaa lopulta siihen, että suomalaismielinen uuslappalaisliike saa saamelaiskäräjillä enemmistön. Tällöin saamelaiskäräjät menettäisi merkityksensä saamelaisten edustuselimenä.

■語句・文法

itse-määräämis-oikeus「自己決定権、自決権」/ rikkoo「壊す、犯す」/ nyky-linja「現在の路線」/ laki-uudistus「法改正」/ laki-uudistuksen「法改正の」[属]< -uudistus < uudistaa < uusi / hyllyttäminen「棚上げにすること」動名 < hyllyttää < hylly / johtaa siihen, että ... 「...へと導く」/ suomalais-mielinen「フィンランド人主義の、フィンランド人優先の」/ uus-lappalais-liike「新ラップ人運動」(「サーミ人」ではない「ラップ人」という集団的アイデンティティを生み出そうとする運動) / menettäisi「失うだろう」[条] 現単 3 < menettää < mennä / merkityksensä「自らの意味を」[属対]

+ 単 3 所接 < merkitys < merkitä < merkki / edustus-eliminä「代表機関として」[様] < elin < elää

●フィンランド語理解のための訳例

問題は|サーミ民族の自己決定権についてだ、|それをフィンランドは犯している。現在の路線を続けることは|言い換えれば|法改正を棚上げにすることは|導く|最後には|〈次のこと〉へ|フィンランド人主義の|新ラップ人運動が|得る|サーミ議会において|多数派を。このとき|サーミ議会は|失うだろう|自らの意味を|サーミ人たちの代表機関として。

◎意訳

サーミ議会法の改正において問題となっていることは、フィンランドが侵害しているサーミ民族の自己決定権である。現在の状況を継続すること、つまり法改正を棚上げにすることは、フィンランド人主義にもとづく新ラップ人運動がサーミ議会において多数派を占めるという結果をもたらすことになる。そうなった場合、サーミ議会はサーミ人たちの代表機関としての自らの意義を失うことになるだろう。

【19】国連人権委員会も人権侵害を指摘している

Nykyinen saamelaiskäräjälaki rikkoo ihmisoikeuksia, totesi YK:n ihmisoikeuskomitea vuonna 2019 ja Syrjinnän vastainen komitea vuonna 2022.

Molemmat ratkaisut liittyivät saamelaiskäräjien vaaliluetteloon ja korkeimman hallinto-oikeuden päätöksiin hyväksyä vaaliluetteloon henkilöitä, joita saamelaisyhteisö ei tunnistanut. Komiteat suosittivat Suomea uudistamaan saamelaiskäräjälakia saamelaisten itsemääräämisoikeuden vahvistamiseksi.

Myös Suomessa kaikki keskeiset ihmisoikeustahot, Ihmisoikeuskeskus, Ihmisoikeusvaltuutettu, Amnesty ja Ihmisoikeusliitto, ovat suosittaneet lain pikaista uudistamista.

■語句・文法

totesi「結論づけた」< todeta < tosi / YK = Yhdistyneet kansakunnat「国際連合」 / ihmis-oikeuskomitea「〈国連自由権規約〉人権委員会」 / Syrjinnän vastainen komitea「〈人種〉差別撤廃委員会」 / ratkaisu「決定、裁定」< ratkaista / korkeimman「最高の」[属] < korkein 最 < korkea / korkein hallinto-oikeus「最高行政裁判所」 / päätöksiin「決定に」[複入] < päätös < päättää / hyväksyä「認める、受け入れる」< hyvä / tunnistaa「認識する、認める」 / suosittaa「勧める、勧告する」< suosia / vahvistamiseksi「強化するために」[変] < vahvistaminen 動名 < vahvistaa < vahva / ihmis-oikeus-taho「人権関連組織」 / ihmis-oikeus-valtuutettu「人権オンブズマン」 /

●フィンランド語理解のための訳例

現在のサーミ議会法は|犯す|人権を、|結論づけている|国際連合の〈自由権規約〉人権委員会は|2019年に|そして〈人種〉差別撤廃委員会は|2022年に。

どちらの決定も|関連する|サーミ議会の選挙人名簿に|そして最高行政裁判所の[決定に|認め

る|選挙人名簿に|人物を、|それらを|サーミ人社会は認めていない]。両委員会は勧める|フィンランドが|改正するよう|サーミ議会法を|サーミ人たちの自己決定権を|強めるために。

またフィンランドでも|すべての中心的な人権関連組織は、|人権センターは、|人権オンブズマンは、|アムネスティは|そして人権同盟は、|勧めている|法の|早急な|改正することを。

◎意訳

現行のサーミ議会法は人権を侵害していると、国連の自由権規約人権委員会は 2019 年に、そして人種差別撤廃委員会は 2022 年に結論づけている。

どちらの裁定もサーミ議会の選挙人名簿に関連しており、サーミ人社会が認めていないような人々が選挙人名簿に登録されることを認めるとした最高行政裁判所の決定に関連して出されたものである。両委員会は、サーミ人たちの自己決定権を強化するために、フィンランドがサーミ議会法を改正するよう勧告している。

またフィンランドにおいても、人権に関連する各方面、人権センター、人権オンブズマン、アムネスティ、そして人権同盟が法を早急に改正するよう勧告している。

【20】ノルウェーやスウェーデンのサーミ議会も懸念を表明している

Saamelaiskäräjät ovat huolissaan siitä, että saamelaiskäräjälain uudistusta ei ole vielä viety eduskunnan käsiteltäväksi. Ruotsin, Norjan ja Suomen saamelaisten parlamentaarinen neuvosto The Sámi Parliamentary Council, lähestyi pääministeri Sanna Marinia (sd.) kirjeellä.

Neuvosto muistuttaa YK:n alkuperäiskansojen oikeuksien julistuksesta, jonka mukaan alkuperäiskansoilla on oikeus päättää siitä, kuka yhteisöön kuuluu. Neuvosto muistuttaa Suomen hallitusta siitä, että YK:n ihmisoikeuskomitea ja syrjinnän vastainen komitea ovat todenneet nykyisen saamelaiskäräjälain ihmisoikeuksien vastaiseksi.

■語句・文法

saamelais-käräjät ovat「複数のサーミ議会は～にいる」(käräjät は複数形であっても単数扱いをするので、述語動詞はふつう単数になります。ここで述語動詞が ovat と複数形になっているのは、主語が文字通り複数の「サーミ議会」を、つまりフィンランドだけではなくノルウェーやスウェーデンのサーミ議会を含んでいるためだと思います) / ei ole viety「もっていかれていない」受現否 < viedä / edus-kunta「国会」 / käsiteltäväksi「扱われるように」[変] < käsiteltävä 受現分 < käsitellä / parlamentaarinen「議会の」 / neuvosto「評議会」 < neuvo (saamelaisten parlamentaarinen neuvosto = The Sámi Parliamentary Council はノルウェー、スウェーデン、フィンランド 3 か国それぞれのサーミ議会の協力組織で、ロシア側のサーミ人組織も参加している) / muistuttaa「思い出させる、指摘する」 < muistua < muistaa / YK:n alku-peräis-kansojen oikeuksien julistus「先住民族の権利に関する国連宣言」(2007 年の国連総会において採択された決議) / ihmis-oikeuksien

vastaiseksi「人権に反するものだ」と(vastaiseksi[変] < vastainen)

●フィンランド語理解のための訳例

〈3 か国の〉サーミ議会は心配している|〈次のこと〉について、|サーミ議会法の改正はまだもっていかれていない|国会の|扱われるように。スウェーデン、ノルウェー、そしてフィンランドのサーミ人たちの|議会評議会|The Sámi Parliamentary Council(サーミ議会評議会)は、|近づいた|首相 Sanna Marin(社民党)に|手紙で。

評議会は思い出させる|国連の|先住民族の権利の宣言について、|それによれば|先住民族にはある|権利が|決めるための|〈次のこと〉について、|誰が〈先住民族〉共同体に属するのか。評議会は思い出させる|フィンランド政府に|〈次のこと〉について|国連の〈自由権規約〉人権委員会|そして〈人種〉差別撤廃委員会は結論づけている|現在のサーミ議会法を|人権に反すると。

◎意訳

サーミ議会法の改正がいまだに国会の審議に付されていないことに、3 か国のサーミ議会は懸念を表明している。そのため、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドのサーミ議会評議会は、Sanna Marin 首相(社民党)に書簡を送った。

サーミ議会評議会は、誰が自分たちの共同体に属するかを決定する権利は先住民族にあるとする「先住民族の権利に関する国連宣言」の存在について指摘をしている。評議会はフィンランド政府に対し、国連の自由権規約人権委員会と人種差別撤廃委員会が現行のサーミ議会法は人権に反すると明言していることを指摘している。

【2】「サーミ議会法」の改正は何度か頓挫している

Saamelaiskäräjälakia on yritetty uudistaa Suomessa jo yli vuosikymmenen ajan, ja uudistus on kaatunut aina riitoihin. Jos tämäkään hallitus ei saa hommaa maaliin, laki siirtyy taas seuraavan hallituksen pöydälle.

■語句・文法

vuosi-kymmenen「10 年間の」[属]< -kymmen / riitoihin「対立へ、論争へ」[複入]< riita / homma「仕事、役割」/ maaliin「ゴールへ」[入]< maali /

●フィンランド語理解のための訳例

サーミ議会法は|試みられてきた|改正する|フィンランドで|すでに 10 年以上の間、|そして改正は倒れてきた|常に対立へ。もしこの政府も|できなければ|仕事をゴールへ、|法は移る|再び|次の政府の机上へ。

◎意訳

フィンランドではすでに 10 年以上の間、サーミ議会法の改正が試みられてきたが、改正は常に意見の対立により頓挫してきた。もし、この政府も改正作業を終えることができなければ、法改正は再び次の政府の机上へと移ることになる。

【22】2023 年 Marin 政権は改正をめざす

Marinin hallitus on kolmas perättäinen hallitus, joka saamelaiskäräjälakia yrittää uudistaa. Suomi on saanut YK:n ihmisoikeuskomitealta moitteita siitä, että korkein hallinto-oikeus on päästänyt saamelaiskäräjien vaaliluetteloon saamelaiskäräjien hylkäämiä henkilöitä.

■ 語句・文法

perättäinen「連続の」< perättäin (= peräkkäinen < peräkkäin) / moitteita「非難を」[複分]< moite < moittia / hylkäämiä「拒否するような」[複分]< hylkäämä 動分 < hylätä

● フィンランド語理解のための訳例

Marin 政権は 3 番目の |連続した政権である、|それはサーミ議会法を|改正しようとする。フィンランドは得ている |国連<自由権規約>人権委員会から|非難を|<次のことに>ついて|最高行政裁判所は入らせた|サーミ議会の選挙人名簿に|サーミ議会の拒否する人物たちを。

◎ 意訳

先行する二つの政権に続いて、Marin 政権は 3 政権連続してサーミ議会法を改正しようとしている。サーミ議会が認めないような人物がサーミ議会の選挙人名簿に登録されることを最高行政裁判所が認めたことについて、フィンランドは国連自由権規約人権委員会から非難を受けている。

【23】改正の目的はサーミ人の自己決定権を実現すること

Lakiesityksen tavoitteena on edistää saamelaisten itsemääräämisoikeuden toteutumista.

Lakiesityksessä saamelaiskäräjälain määritelmä saamelaisesta ehdotetaan korvattavaksi säännöksellä siitä, millä kriteereillä saa äänestää ja asettua ehdolle saamelaiskäräjillä.

■ 語句・文法

laki-esitys「法案」/ toteutumista「実現を」[分] < toteutuminen 動名 < toteutua < toteuttaa < tosi / ehdotetaan「提案される」受現 < ehdottaa < ehto / korvattavaksi「とりかえられるように」[変] < korvattava 受現分 < korvata / säännöksellä「規定により」[接] < säännös < säätää / millä kriteereillä「どのような基準により」[複接] > mikä kriteeri / asettua ehdolle「立候補する」

● フィンランド語理解のための訳例

法案の目的としてある |促進すること|サーミ人たちの自己決定権の実現を。

法案で | [サーミ議会法の定義は|サーミ人についての] |提案されている|とりかえられるように|規定によって|<次のこと>についての|どのような基準で|できる|投票する|そして立候補する|サーミ議会において。

◎意訳

サーミ議会法の改正案の目的は、サーミ人たちの自己決定権の実現を促進することにある。

改正案では、サーミ議会法におけるサーミ人に関する定義を、サーミ議会選挙で投票し立候補できるための基準を定める規定により置き換えることが提案されている。

【24】改正案では参政権を得る条件は「サーミ語」

Uudessa laissa korostuu vaatimus saamen kielestä. Jatkossa äänioikeuden saisi, jos vähintään yksi isoisovanhemmista on oppinut saamen ensimmäisenä kielenään. Vaalioikeuden saivat myös ne, joiden vanhemmista yksi on merkitty äänioikeutetuksi lain voimaantulon jälkeisissä vaaleissa.

Sen sijaan jatkossa esi-isän lappalaismerkintä historiallisissa dokumenteissa ei enää antaisi äänioikeutta saamelaiskäräjillä.

Eli enää saamelaisstatusta ei voisi saada sen perusteella, että esi-isät ovat olleet perinteisten lappalaiselinkeinojen harjoittajia.

■語句・文法

korostua「強調される」／vaatimus「要求」< vaatia／jatkossa「続きでは、今後は」[内]< jatko < jatkaa／ääni-oikeuden「投票権を」[属対]< -oikeus／saisi「手に入れるだろう」[条]現単 3 < saada／vähintään「少なくとも」／iso-iso-vanhemmista「曾祖父母のうち」／vaali-oikeus「選挙権」／ne, joiden ...「...である人々」(joiden[複属]< joka)／ääni-oikeutetuksi「投票権がある人間として」[変]< -oikeutettu 受過分 < -oikeuttaa < oikeus／voimaan-tulo「発効」(voimaan[入]< voima)／lappalais-merkintä「ラップ人として各種台帳に記録されていたこと」(merkintä < merkitä < merkki)／saamelais-statusta「サーミ人の地位を」[分]< -status／sen perusteella, että ...「...にもとづいて」／harjoittajia「実践者」[複分]< harjoittaja < harjoittaa

●フィンランド語理解のための訳例

新しい法では|強調される|要求が|サーミ語についての。今後は|投票権を|得るだろう、|もし少なくとも一人|曾祖父母のうち|習得している|サーミ語を|自らの第一言語として。選挙権を|手に入れるだろう|また<次のような>人々が、|それらの両親のうち|一人が|登録されている|投票権がある者として|法の発効の後の選挙において。

その代わりに|今後は|祖先のラップ人登録は|歴史的な文書における|もはや与えないだろう|投票権を|サーミ議会における。

言い換えれば|もはや|サーミ人の地位を|手に入れられないだろう|<次のことに>もとづいて、|祖先が|伝統的なラップ人の生業の|実践者。

◎意訳

新しい法においては、サーミ語に関する要件が強調されることになる。今後は、曾祖父母のうち少なくとも一人がサーミ語を第一言語として習得していれば、サーミ議会選挙における投票権を得る

ことになるだろう。また、両親のうち一人が法の発効後に行われた選挙において投票権がある者として登録されている人間もまた投票権を得ることになる。

それに対して、歴史的文書においてラップ人として記録されていたことによりサーミ議会における投票権を得るということは、今後はもはやなくなる。

つまり、祖先が伝統的なラップ人の生業の従事者であるということにもとづいて、サーミ人の地位を得ることはもはやできないことになる。

【25】フィンランドにおける「サーミ人」の定義は決して厳しいものではない

Suomen hallitustakin repineen kiistan keskiössä on se, kenet voidaan merkitä saamelaiskäräjien vaaliluetteloon. Lakiuudistuksessa saamelaiskäräjälaista poistettaisiin niin sanottu lappalaispykälä. Neuvosto huomauttaa, että Suomessa liikkuu virheellistä tietoa, että äänioikeuden saamiseen olisi merkittävästi tiukempi seula kuin Ruotsissa ja Norjassa. Tosiasiassa lakiuudistuksen esittämä kriteeristö on hyvin samankaltainen kuin se, mikä on käytössä Norjassa.

Neuvosto vaatii hallitusta lopettamaan ihmisoikeusrikkomukset. Kirjeen ovat allekirjoittaneet Ruotsin saamelaiskäräjien Håkan Jonsson, Norjan saamelaiskäräjien Silje Karine Muotka ja Suomen saamelaiskäräjien Tuomas Aslak Juuso.

■ 語句・文法

repineen「引き裂いているような」[属] < repinyt 能過分 < repiä/kiista「論争」/keskiö「中心、核心」< keski-/poistettaisiin「除かれるだろう」[条] 受現 < poistaa < pois/lappalais-pykälä「ラップ人条項」(「ラップ人として各台帳に登録されていたものの子孫はサーミ人である」というサーミ議会法の規定のこと) / huomauttaa「気づかせる、指摘する」< huomata / äänioikeuden saamiseen「投票権を手に入れるために」(saamiseen [入] < saaminen 動名 < saada) / merkittävästi「著しく、注目すべきほど」< merkittävä 受現分 < merkitä < merkki/tiukempi「より目の詰まった、より厳しい」比 < tiukka/seula「ふるい、ざる」/tosi-asia「事実」/esittämä「提示しているような」動分 < esittää/kriteeristö「基準全体」< kriteeri/käytössä「使われて」[内] < käyttö < käyttää/ihmis-oikeus-rikkomus「人権侵害」(rikkomus < rikkoa) / alle-kirjoittaa「署名する」

● フィンランド語理解のための訳例

フィンランド政府をも|引き裂いている|論争の核心は|である、|[誰たちを登録できるのか|サーミ議会の選挙人名簿に]。法改正において|サーミ議会法から|除外されるだろう|いわゆる|ラップ人条項は。<サーミ議会>評議会は気づかせる、|フィンランドでは|動いている|誤った情報が、|投票権を得ることは|あるだろう|著しく|より厳しいふるいが|スウェーデンとノルウェーより。実際には|法改正の提示する<サーミ議会選挙の選挙人名簿に記載されるための>基準は|非常に似たものである|使われているものと|ノルウェーで。

評議会は要求する|政府に|やめるように|人権侵害を。<サーミ議会評議会が Sanna Marin 首相

に送った手紙には署名しているスウェーデンのサーミ議会の Håkan Jonsson、ノルウェーのサーミ議会の Silje Karine Muotka、そしてフィンランドのサーミ議会の Tuomas Aslak Juuso が。

◎意訳

フィンランド政府をも分断している論争の核心は、サーミ議会の選挙人名簿に誰を登録できるのかという問題である。法改正が行われれば、いわゆる「ラップ人条項」はサーミ議会法から削除されることになるだろう。サーミ議会における投票権を得るために、スウェーデンやノルウェーと比べてフィンランドではより厳しいふるいにかけてられるという誤った情報がフィンランドで流布されているとサーミ議会評議会が指摘している。実際には、今回の法改正がめざしているサーミ議会の選挙人名簿に記載されるための基準は、ノルウェーで採用されているものと非常に近いものである。

評議会はフィンランド政府に人権侵害をやめるよう要求している。サーミ議会評議会が Marin 首相に宛て送付した書簡には、スウェーデン・サーミ議会の Håkan Jonsson、ノルウェー・サーミ議会の Silje Karine Muotka、そしてフィンランド・サーミ議会の Tuomas Aslak Juuso が署名している。

【26】Marin 前首相は人権問題としてサーミ議会法の改正を強く主張した

Marin perusteli uudistuksen tärkeyttä erityisesti ihmisoikeusnäkökulmalla.
”Tämä on ihmisoikeuskysymys, ja on häpeällistä, että Suomi ei ole kyennyt tätä asiaa viemään eteenpäin.”

■語句・文法

perustella「根拠づける、正当だとする」< perustaa < perus／tärkeyttä「重要性を」[分]< tärkeys < tärkeä／ihmis-oikeus-näkö-kulmalla「人権の視点により」[接]< -kulma／häpeällinen「恥ずべき」< häpeä／viedä eteen-päin「前進させる」

●フィンランド語理解のための訳例

Marin〈首相〉は根拠づける〈サーミ議会法の〉改正の重要性を人権の視点により。
「これは人権問題だ、そして恥ずべきだ、[フィンランドができてこなかったこの問題を前進させる]」。

◎意訳

Marin 首相はサーミ議会法改正の重要性を人権という視点から正当なものだと主張した。
「これは人権の問題であり、この問題をフィンランドがこれまで前へ進めることができなかったということは恥ずべきことである。」

【27】フィンランドは人権を踏みにじるのか

Saamelaiskäräjäläki uhkaa jäädä tekemättä jo kolmannelta hallitukselta. Kun myös Kansainvälisen työjärjestön ILO 169 -sopimus on yhä ratifioimatta, Suomi näyttäytyy maana, joka polkee Euroopan ainoan alkuperäiskansan ihmisoikeuksia.

■ 語句・文法

uhkaa「(望ましくないことが)起こりそうだ、しそうだ」現単 3 < uhata < uhka / jäädä tekemättä「しないままになる、されないままになる」(tekemättä MA 不[欠] < tehdä) / kolmannelta hallitukselta「3 番目の政府から」[奪] < kolmas hallitus / Kansain-välinen työ-järjestö「国際労働機関」(= ILO = International Labour Organization) / ILO 169 -sopimus「ILO169 号条約」(次の「★補足」を参照) / ratifioimatta「批准しないままで」MA 不[欠] < ratifioida / näyttäytyä「姿を見せる、明らかになる」< näyttää < näkyä / polkea「踏む」

● フィンランド語理解のための訳例

サーミ議会法は|しそうだ|されないままになる|すでに 3 番目の政権から。〈次のよう〉なので|また国際労働機関の|ILO169 条約|いまだ批准しないままで、|フィンランドは姿を見せる|国として、|それは踏む|ヨーロッパの唯一の先住民族の|人権を。

◎ 意訳

サーミ議会法の改正は、今回で 3 番目の政権においても成立しない恐れが出てきている。国際労働機関による ILO169 条約も批准しないままとなっており、フィンランドはヨーロッパ唯一の先住民族であるサーミ人の人権を踏みにじる国として自らの姿をさらすことになる。

★ 補足

ILO169 号条約は先住民族の権利を具体的に規定した唯一の国際条約とされています。フィンランドも長い間その批准をめざして作業を進め、政府案が国会に提出されたこともありますが、2023 年 6 月時点で批准には至っていません。ノルウェーはすでに 1990 年の段階で批准を済ませているようですが、フィンランドと並んでスウェーデンも批准に至っていません(もちろんといっは何ですが、日本も批准していません)。批准を妨げている理由のうちの 하나가、ここで取り上げているサーミ人の定義に関する議論のようです。

【28】「政治家は仕事をするときだ」

Lakihanke ei ole ongelmaton. Parempiakaan ideoita ei kuitenkaan ole pöytään lyöty, joten viivyttely on enää vain vastuun väistelyä. Poliitikkojen on aika tehdä työnsä.

■ 語句・文法

ongelmaton「問題のないような」< ongelma / parempia「よりよい」[複分] < parempi 比 < hyvä / ei ole lyöty「叩きつけられていない」受完否 < lyödä / lyödä pöytään「(トランプゲームで)切り札を出す」 / viivyttely「先延ばし、引き延ばし」< viivytellä < viivyttää < viipyä / väistely「避けること」< väistellä < väistää

● フィンランド語理解のための訳例

立法プロジェクトは問題がないわけではない。よりよい考えも|しかしながら|テーブルへ|叩きつ

けられていない、|そのため先延ばしは|もはや|ただの|責任の|回避。政治家たちは|時間だ|する|自分たちの仕事を。

◎意訳

今回のサーミ議会法の改正案には問題がないわけではない。しかしながら、さらにより考えが提示されてはいないのだから、改正を先延ばしにすることは単なる責任の回避でしかない。政治家たちは自らの役割を果たすべきときである。

【29】しかし、改正は今回も頓挫した

Esitys uudeksi saamelaiskäräjäläiksi ei ehdi enää eduskunnan täysistunnon käsittelyyn.

Asia kaatui perjantaina aamulla perustuslakivaliokunnassa. Valiokunnan enemmistö päätyi äänestyksen jälkeen näkemykseen, ettei se voinut tässä ajassa saada mietintöään loppuun. Asian käsittely siis päätettiin lopettaa.

”Asiaa valiokunta piti hyvin tärkeänä, mutta näki, ettei tässä aikataulun puitteissa ole valmiutta antaa mietintöä”, sanoi perustuslakivaliokunnan puheenjohtaja Johanna Ojala-Niemelä (sd).

Äänestys asiasta päättyi 9–7 sen hyväksi, että mietintöä ei voida antaa. Kokoomuksen, perussuomalaisen ja keskustan kansanedustajat olivat valiokunnassa tällä kannalla.

Sdp:n, vasemmistoliiton, vihreiden ja Rkp:n kansanedustajat olisivat halunneet edistää uudistusta eli antaa siitä mietinnön.

■ 語句・文法

esitys uudeksi saamelais-käräjä-laiksi 「サーミ議会法改正案（「新しいサーミ議会法としての提案」）」
／täysi-istunto 「総会」／käsittely 「審議、扱うこと」< käsitellä／perustus-laki-valio-kunta 「基本法委員会」（国会の常設委員会については『フィンランド語の世界を読む』28 課を参照してください）
／näkemykseen 「見方へ、考えへ」[入]< näkemys < nähdä／saada loppuun 「終わらせる、完成させる」
／mietintöään 「自らの報告書を」[分]+ 単 3 所接 < mietintö < mieltä／aika-tila 「時間割、スケジュール」
／puitteissa 「枠の中で」[複内]< puite／valmiutta 「完成、準備」[分]< valmius < valmis
／sen hyväksi, että ... 「...のために、...の有利に」
／kokoomus 「国民連合党」
／perussuomalaiset 「真のフィンランド人党」
／keskusta 「中央党」
／tällä kannalla 「この考えに」[接]< tämä kanta
／Sdp (= sosialidemokraattinen puolue) 「社民党」
／vasemmisto-liitto 「左翼同盟」
／vihreät 「緑の党」
／Rkp (= ruotsalainen kansan-puolue) 「スウェーデン語系国民党」

●フィンランド語理解のための訳例

提案|新しいサーミ議会法として|間に合わない|もはや|国会の総会の審議へ。

〈改正の〉件は倒れた|金曜日の朝に|基本法委員会において。委員会の多数派|至った|投票の後で|〈次のような〉考え方へ、|それ〈=委員会〉はできない|この時間で|終わらせる|自らの報告

書を。

「この件を|委員会は|みなした|とても重要だと、|しかし見た|ない|ここで|スケジュールの枠の中で|準備が|与えるための|報告書を」、|と言った|基本法委員会の議長|Johanna Ojala-Niemelä (社民党)。

投票|この件について|終わった|9 対 7 へ|<次のことに>有利に、|報告書を|与えることはできない。国民連合党の、|真のフィンランド人党の|そして中央党の国会議員たちは|いた|委員会の中で|この考えに。

社民党の、|左翼連合の、|緑の党の|そしてスウェーデン語系国民党の国会議員たちは|望んでいた|進める|改正を|言い換えれば|与える|それについて|報告書を。

◎意識

新しいサーミ議会法の法案はもはや国会総会の審議には間に合わない。

改正の問題は金曜日の朝、基本法委員会において頓挫した。委員会の多数派は投票により、この時点において報告書を完成させることはできないという結論に至った。

「委員会はこの問題を非常に重要だとみなしたが、このスケジュールの枠内で報告書を提出する準備はできていないと考えた」と基本法委員会の議長である Johanna Ojala-Niemelä (社民党)は説明した。

この問題に関する投票では 9 対 7 という票数により、報告書を提出することはできないという結論に達した。国民連合党、真のフィンランド人党、そして中央党の国会議員たちは、この考えを支持する側に立った。

社民党、左翼連合、緑の党、そしてスウェーデン語使用国民党の国会議員たちは改正作業を進めることを、つまり改正に関して報告書を提出することを望んだ。

★補足

サーミ議会法の改正は頓挫し、さらに 2023 年 4 月には国会選挙が実施されました。その結果を受け、6 月に国民連合党の Petteri Orpo を首班とする新政権が誕生しました。新政権を構成するのは国民連合党、真のフィンランド人党、キリスト教民主党、そしてスウェーデン語使用国民党となっています。

【30】2023 年誕生の新政権で「改正をめざす」とは言っているが…

Saamelaiskäräjälain uudistus aiotaan juuri julkaistun hallitusohjelman mukaan antaa eduskunnalle vuoden 2023 loppuun mennessä. Asiasta kertoi ensimmäisenä Helsingin Sanomat.

Saamelaiskäräjälain uudistus kaatui helmikuussa perustuslakivaliokuntaan, joka ei saanut mietintöään valmiiksi määräaikaan mennessä.

Hallitusohjelmaan on kirjattu, että esitys annetaan kansliapäällikkö Pekka Timosen toimikunnan työn pohjalta yhteistoiminnassa Saamelaiskäräjien kanssa. Mietinnön mukaan Saamelaiskäräjien vaaliluettelon pääsemisen kriteerit uudistetaan, ja samalla vahvistetaan saamelaisten oikeus itse määrittellä, ketkä ovat

saamelaisia. [...]

Lisäksi ohjelmassa halutaan vahvistaa vähemmistökielten, erityisesti saamen kielten, karjalan kielen, romanikielen ja kotimaisten viittomakielten asemaa.

■ 語句・文法

aiotaan「～するつもりである」受現 < aikoa/juuri julkaistun hallitus-ohjelman mukaan「ちょうど発表された政権プログラムによれば」(julkaistun「発表されたような」[属]< julkaistu 受過分 < julkaista) / mennessä「～までに」e 不[内]< mennä/saada valmiiksi「完成させる」(valmiiksi[変]< valmis) / määrä-aika「期限、締め切り」/ on kirjattu「記されている」受完 < kirjata < kirja / kanslia-päällikkö「事務局長、事務次官」/ toimi-kunta「作業部会」/ pohjalta「もとにして」[奪]< pohja / yhteis-toiminnassa「共同作業において」[内]< -toiminta < toimia < toimi / pääsemisen「入ることの」動名[属]< päästä

● フィンランド語理解のための訳例

サーミ議会法の改正は|するつもりである|ちょうど発表された政権プログラムによれば|与える|国会へ|2023年の終わりまでに。この件について|語った|最初に|Helsingin Sanomat 紙が。

サーミ議会法の改正は|倒れた|2月に|基本法委員会へ、|それは完成させられなかった|自らの報告書を|期限までに。

政権プログラムには|記されている、|提案は与えられる|〈法務省〉事務次官 Pekka Timonen の|作業部会の仕事にもとづき|共同作業として|サーミ議会と。報告書によれば|サーミ議会の選挙人名簿に|入ることの|基準は|改正される、|そして同時に|強化される|サーミ人たちの権利|自分自身で定義する、|誰がサーミ人であるのか。[...]

加えて|プログラムの中で|望まれる|強化する|少数派言語の、|とくに|サーミ諸語の、|カレリア語の、|ロマニ語の|そして国内の手話諸言語の|地位を。

◎ 意訳

ちょうど発表された Orpo 政権の施政方針によれば、サーミ議会法の改正は 2023 年終わりまでには国会の審議に諮られる。この問題については Helsingin Sanomat 紙が最初に報じている。

サーミ議会法の改正は 2 月の基本法委員会において頓挫し、委員会は報告書を完成させることができなかった。

改正案は法務省事務次官である Pekka Timonen の作業部会の結論をもとに、サーミ議会との共同作業により提出されると、施政方針には記されている。報告書によれば、サーミ議会の選挙人名簿に記載されるための基準は改正され、それと同時に、誰がサーミ人であるのかをサーミ人たちが定義する権利が強化されることになる。

さらに施政方針では少数派言語の地位を、とくにサーミ諸語、カレリア語、ロマニ語、国内の手話諸言語の地位を強化することもめざしている。

★補足

【29】で見たように、国会の基本法委員会において改正を見送るべきだとしてした国民連合党と真のフィンランド人党が中心となって成立したのが Orpo 政権です。そのような政権の下で、はたしてサーミ議会法の改正が実現するのか、非常に不透明だと言わざるをえない気がします。

◆出典

【1】:

Valkeapää, Nils Aslak. 1985. *Ruoktu váimmus*. Dat.

【2】【13】【14】:

Valkeapää, Nils-Aslak. 1971. *Terveisiä Lapista*. Otava.

【2】121-122 ページ、【13】120 ページ、【14】122 ページ

【3】~【12】:

Sámediggi. 2018. *VASTUULLISEN JA EETTISESTI KESTÄVÄN SAAMELAISMATKAILUN TOIMINTAPERIAATTEET*.

<https://www.businessfinland.fi/4900bo/globalassets/finnish-customers/02-build-your-network/visit-finland/julkaisut/vastuullisen-ja-eettisesti-kestavan-saamelaismatkailun-toimintaperiaatteet_hyvaksytyt_24092018-3.pdf>

【3】3 ページ、【4】4 ページ、【5】【6】【7】【8】13 ページ、【9】【10】14 ページ、【11】6 ページ、【12】15 ページ

【15】【16】【19】【21】【24】:

Myllyoja, Essi. 2022. ”Kuka on saamelainen? Tästä hallitusta repivässä saamelaiskiistassa on kyse.” *Helsingin sanomat*. 12.11.2022.

<<https://www.hs.fi/kotimaa/art-2000009196555.html>>

【17】【27】【28】:

”Saamelaiskäräjälaki on vaikea, mutta tärkeä.” *Helsingin sanomat*. 17.11.2022.

<<https://www.hs.fi/paakirjoitukset/art-2000009207871.html>>

【18】:

”Saamelaiskäräjälain uudistus on kiireellinen ihmisoikeuskysymys.” *Helsingin sanomat*. 24.9.2022

<<https://www.hs.fi/mielipide/art-2000009088174.html>>

【20】【25】:

Paukkeri, Marcia. 2022. ”Ruotsin, Norjan ja Suomen saamelaiset lähettivät kirjeen Sanna Marinille – vaativat ihmisoikeusrikkomusten lopettamista.” *yle*. 15.11.2022.

<<https://yle.fi/a/3-12677368>>

【22】:

Pelli, Petja. 2022. ”Hallituksen työ on jumissa, vaikka aika loppuu: ”Oikein mikään ei nyt etene””
Helsingin sanomat. 13.11.2022.
<<https://www.hs.fi/politiikka/art-2000009198459.html>>

【23】:

Oksanen, Roosa. 2022. ” Saamelaiskäräjät neuvottelivat lakiin tehtävästä muutoksesta – Ainakin yksi vastustaja kertoo muuttaneensa mieltään.” *Helsingin sanomat*. 29.11.2022.
<<https://www.hs.fi/kotimaa/art-2000009230408.html>>

【26】:

Muhonen, Teemu & Minna Nalbantoglu. 2022. ” Hallituksessa kova riita saamelaiskäräjälaista – Keskusta esti esityksen etenemisen eduskuntaan tänään.” *Helsingin sanomat*. 10.11.2022.
<<https://www.hs.fi/politiikka/art-2000009192341.html>>

【29】:

Sundman, Robert, Joonas Aaltonen & Anni Keski-Heikkilä. 2023. ” Saamelaiskäräjälaki kaatui perustuslakivaliokuntaan.” *Helsingin sanomat*. 24.2.2023.
<<https://www.hs.fi/politiikka/art-2000009414580.html>>

【30】:

Rasmus, Linnea. 2023. ”Saamelaiskäräjälaki aiotaan antaa eduskuntaan vuoden loppuun mennessä – hallitusohjelmassa mukana myös kirjauksia saamen kielistä. yle. 16.6.2023.
<<https://yle.fi/a/74-20037244>>

🐍 蛇足

サーミ議会法の改正は 3 回連続で断念されることになりました。その過程で常にフィンランド人の側から出てくるのは、サーミ人の意見が一致していないという指摘です。今回の改正案についても、サーミ議会の審議の中では反対の意見もありましたが、採決の結果としては賛成が多数派となっています。しかし、それでも「サーミ人の意見が一致していない」ということを改正に後ろ向きな自分たちの姿勢を擁護する根拠として使おうとする国会議員たちがいるようです。そのような態度に対して異議を唱えたサーミ議会の議長である Tuomas Aslak Juuso (サーミ語名 Gáijjot Ánte Issáha Duommá) の発言を取り上げた新聞記事を見ておきます。

【追加】サーミ人に意見の一致を求めることは正しいのか

Juuso ihmettelee, miksi saamelaisyhteisöltä ylipäätään odotetaan yksimielisyyttä. ”On kohtuutonta, että esimerkiksi kansanedustajat velvoittavat, että saamelaisten tulee olla yksimielisiä. Sinä päivänä perun sanani, kun Suomen eduskunta on systemaattisesti yksimielinen.”

◆ 出典

Oksanen, Roosa. 2022. ”Saamelaiskäräjien jäsenet kertovat, mitä he ajattelevat lakiuudistuksesta.”” *Helsingin sanomat*. 16.11.2022
<<https://www.hs.fi/kotimaa/art-2000009200304.html>>

■ 語句・文法

ihmetellä「不思議に思う」< ihme / yli-päätään「そもそも」 / yksi-mielisyyttä「意見の一致を、全会一致を」 [分] < -mielisyys < -mielinen < mieli / kohtuuton「不合理な、度を越えた、不適切な」 < kohtuu ⇔ kohtuullinen ⇒ kohtuus / velvoittaa「義務づける」 < velka / sinä päivänä, kun ... 「...の日に」 / perua「取り消す」 / systemaattisesti「体系的に、組織的に」 < systemaattinen ⇒ systeemi

● フィンランド語理解のための訳例

〈フィンランド・サーミ議会の〉Juuso は不思議に思う、|なぜサーミ共同体から|そもそも|期待されるのか|意見の一致を。

「不合理だ、|たとえば国会議員たちが|義務付ける、|サーミ人たちは|[~でなければならない]一つの意見である」。その日に|取り消す|私の言葉を、|〈次の〉ときに|フィンランド国会が|組織的に|意見が一致している。

◎ 意訳

フィンランド・サーミ議会の Juuso は、そもそもサーミ人共同体には全員の意見が一致することが期待されるのはなぜなのか不思議に思っている。

「たとえば、サーミ人たちは全員の意見が一致していなければならないと国会議員たちが義務づけるというのは、とんでもないことだ。フィンランドの国会が常に全会一致の組織となる日があれば、私は発言を撤回するが。」

★補足

たとえば、男女間の平等に関して何かを変えようとする際に、「現状を肯定している女性だっている」といった発言によって変更を押しとどめようとする姿勢はめずらしいものではありません。これは何も男女間の問題に限ったことではなく、性的少数者の問題や少数民族、あるいは外国人や移民に関する問題についても、多数派の中にしばしばみられる姿勢だと思います。多数派の中では多様な意見が存在することが許され、ときには大いに称賛されさえもする一方で、少数派の立場に立つ集団には意見の一致を求めることは明らかにまちがったことだと思います。少数派の中にだって多様な意見が存在するのは当たり前で、その中から合意を形成していくというのも多数派とまったく同じ道筋です。こういう点にも注意しておかないと、少数派内に多様な意見が存在することが多数派を利するだけのものになってしまいますし、それでは多様な人々や文化が存在しているというそもそもの意味が損なわれてしまうだけのような気がします。

なお、北欧諸国間の協力機関である北欧会議は「北欧サーミ人条約」の締結をめざして1990年代から作業を続けてきています。条約草案も提出されていますが、現時点で条約は成立していません。フィンランドのサーミ議会は、2023年発足のOrpo政権の施政方針にサーミ条約の締結をふくめることを求めていたが、施政方針そのものを見るとサーミ条約という言葉は見当たりません。この条約の成立へ向けての作業がどのように進むか不透明ですが、「サーミ人」の定義、あるいは「サーミ議会」選挙に参加する権利について、フィンランドはより明確にしていく必要があるのだろうと思っています。